

4-1 平成21年度業務評価(指定時の県の要求水準に対する項目による)

項 目	評価	事業評価委員会意見	
指定管理期間における要求水準1「本県ゆかりの文学作家を顕彰し、土佐文学の魅力を伝える」			
本県は全国的にも数多くの文学者・文学作家を輩出している。その顕彰とともに時代背景や人物像も含めて土佐文学の魅力を広く紹介する。	B	・作品を多角的に紹介する工夫をしてほしい。	
本県出身またはゆかりの文学作家の顕彰を行うとともに、現在活躍する作家も含め幅広い土佐文学を紹介する	常設展示室を定期的に入れ替え、入館者にとって常に変化があることを心がける	B	・常設展は変化に乏しい感あり。 ・企画展には努力の跡がある。
	ギャラリートークの実施や展示内容・方法の工夫などにより文学への理解を深め土佐文学の新たなファンを開拓する	B	
資料を適正に保管し、活用することによって、作家や関係者との信頼関係を築き、館の運営の基盤とする	B	・データベース化の取り組みは評価できる。	
土佐文学や作家についての研究を進め、企画展の実施と図録等の作成を通じて研究成果を広く公表することにより、県内外に文学館の存在を知らせる	土佐文学や作家についての研究を進め、企画展の実施と図録等の作成を通じて研究成果を広く公表することにより、県内外に文学館の存在を知らせる	B	・県全体の文学研究を総括している印象は薄い。
	来館者や土佐文学に関心を寄せる人々からの質問・疑問に専門性をもって対応できる体制とする	B	
土佐文学に関する情報を常に発信し、高知県の文学館をアピールする 展覧会、広報誌、ホームページをはじめあらゆる手段で文学館の取組を広報する	B	・広報活動の積極性が伺える	
上記の要求水準以外の取組	B		

指定管理期間における要求水準2「県民の文学への関心を高める」		
次世代を担う子どもたちをはじめとして、多くの県民が文学作品や作家に触れ、文学の愉しさを知り豊かな心をもてるよう、様々な事業を通して取り組む。	A	・紙芝居の試みを評価する。 ・親子で楽しめる企画展を開催している。
展覧会では、様々な年齢層を対象に質の高いものを目指し、常に知的好奇心に触れる企画を実現する	A	・年配者と子供が対象で若者の来館者数が少ない。
子どもたちが親しみやすい展示内容や解説、施設面での工夫や、テーマ性をもった展示など入館しやすい環境の整備と維持に努める	A	
多彩な教育普及プログラムを行うとともに、固定化しつつある参加者の掘りおこしを行い、新規参加者を大幅に増やす	B	・掘りおこしは評価するが大幅とまではいかない。
文学サークルや研究会など文学活動に取り組む団体や個人の活動を支援し、文学活動の裾野を広げる	B	
指定期間を通じ、文学館の存在意義を示し、入館者の安定的な確保に努める	B	・安定的確保はこれからの努力次第である。
上記の要求水準以外の取組	B	

4-2 平成21年度業務評価(効率的な運営、サービスの向上、施設、設備の管理に関する評価)

経営努力 収入増加の取組 経費削減の取組	B	・入館者増に向け、懸命に取り組んでいる。 ・初めて入館者が2万人を超えたのは、龍馬伝効果で高知城見学者が増えた影響もあるのではないかと。
サービス向上への取組 自己点検・評価の状況 事故、クレームへの対応 職員の専門性の向上 研修の実施状況 その他サービス向上の取組	A	
社会的責任 法令等の遵守 個人情報、情報公開の状況	B	
建物や設備の管理 点検・修繕の実績 業務委託の状況	B	
危機管理 風水害、火災、地震、盗難等危機管理対策マニュアルの作成 職員研修	B	

総合評価	B	・特段の目新しさはないけれど、特別な失点も感じない。 ・かつてと比べ入館者増に努め、その成果が出ていることは認める。ただ、文学というものの県民への普及、発信が十分かどうか、作家本人との有機的な交流ができていないかどうか、もっと具体的な形で分かるようにしてほしい。 ・地味ではあるが頑張っている姿勢が評価できる。 ・企画と広報に努力を感じる。今後も期待する。 ・幼児、小中高生、高齢者の参加が増えていることは、望ましい。 ・郷土の若い作家を育てる取り組みを一層進める取り組みがほしい。 ・文学館の役割を今一度原点に戻って見つめ、文化、教育、地域振興の面から事業実施をお願いする。
------	---	--

【評価の目安】

- A: 仕様書(要求水準)の内容や目標を上回る成果があり、優れた管理運営が行われたもの
 B: おおむね仕様書(要求水準)の内容どおりの成果があり、適正な管理が行われたもの
 C: 仕様書(要求水準)の内容や目標を下回る項目があり、さらなる工夫・努力が必要なもの
 D: 管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善を要するもの